

別海町中長期財政運営基準に係る令和4年度決算状況について

令和4年度決算がまとまりましたので、別海町中長期財政運営基準に係る令和4年度決算状況についてお知らせします。

◆令和4年度決算状況について

経常「歳入」の状況

当初予算基準額と決算額を比較すると、「負担金補助金等」では減額となったものの、それ以外の経常「歳入」では、大きく増額となっており、経常「歳入」計では、491百万円の増額となっています。

経常「歳出」の状況

当初予算基準額と決算額を比較すると、「04.光熱水燃料費」や「05.委託料」では増額となったものの、それ以外の経常「歳出」では、大きく減額となったため、経常「歳出」計では、674百万円の減額となっています。

なお、「04.光熱水燃料費」と「05.委託料」で増額となりましたが、これは、原油価格や物価の高騰が大きく影響しており、特に「04.光熱水燃料費」では、電気料金の値上げが大きな要因となっています。

事業収支の状況

事業収支差引は、事業に必要な一般財源額を表しており、当初予算基準額と決算額を比較すると、30百万円の増となっています。

進捗状況

表中において、歳入合計の決算額から歳出合計の決算額を差し引くと335百万円となりますが、11百万円の繰越事業財源を含んでおり、それを除いた実質収支は324百万円となります。

実質収支324百万円については、154百万円を令和5年度へ繰り越しし、170百万円を剰余金処分で財政調整基金に積み立てることとしています。

年度末財政調整基金残高については、令和3年度決算における剰余金処分に伴う250百万円の積立金などにより、決算後1,436百万円となっており、当初予算基準額の940百万円と比較すると、基金残高は、496百万円多く積立てられている状況となっています。

財政調整基金については、中長期財政運営基準を上回るペースで積み立てることが出来ていますが、ウクライナ情勢に伴う原材料価格高騰の長期化は、本町基幹産業に深刻な打撃を与えており、このことは、本町財政にも悪影響を及ぼすことから、今後の動向を注視していく必要があります。

◆別海町中長期財政運営基準における 令和4年度当初予算基準額及び決算額の状況

(単位：百万円)

区分	項目	2022 R04
経常 収支	01. 税収	当初予算基準額 2,341 決算額 2,659
	02. 譲与税交付金	当初予算基準額 704 決算額 907
	03. 地方交付税等	当初予算基準額 7,086 決算額 7,111
	04. 負担金補助金等	当初予算基準額 1,183 決算額 1,067
	05. その他の収入	当初予算基準額 554 決算額 615
	経常「歳入」計	当初予算基準額 11,868 決算額 12,359
	01. 報酬	当初予算基準額 117 決算額 104
	02. 職員等人件費	当初予算基準額 2,896 決算額 2,732
	03. 維持補修費	当初予算基準額 110 決算額 79
	04. 光熱水燃料費	当初予算基準額 312 決算額 360
	05. 委託料	当初予算基準額 1,381 決算額 1,385
	06. 負担・補助・扶助	当初予算基準額 1,454 決算額 1,252
	07. 他会計繰出金	当初予算基準額 2,849 決算額 2,625
	08. 公債費	当初予算基準額 1,910 決算額 1,876
	09. その他支出	当初予算基準額 612 決算額 554
	経常「歳出」計	当初予算基準額 11,641 決算額 10,967
	経常収支差引	当初予算基準額 227 決算額 1,392
事業 収支	01. 特定財源「歳入」	当初予算基準額 3,225 決算額 16,419
	02. 事業予算「歳出」	当初予算基準額 4,252 決算額 17,476
	事業収支差引	当初予算基準額 ▲1,027 決算額 ▲1,057
歳入合計		当初予算基準額 15,093 決算額 28,778
歳出合計		当初予算基準額 15,893 決算額 28,443
当初財政調整基金繰入予算		当初予算基準額 800 決算額 —
入札差金等の剰余見込額		当初予算基準額 700 決算額 —
収支差引額		当初予算基準額 ▲100 決算額 335
年度末財政調整基金残高		当初予算基準額 940 決算後 1,436